

デジタルトピック (Vol.6)

本市では「デジタルで便利で豊かな新ステージ」を目指して、高齢者にもやさしいデジタル化を推進しています。

このコーナーでは、地域のデジタルに関する取り組みを紹介します。 ■問/デジタル推進課 ☎572-3943

クラブ概要

設立/令和5年4月

※これまで活動していたクラブが「あすなるスマホ・パソコン会」として、新たに活動をスタート。

会員数/9人(60代~70代)

【男性3人 女性6人】

活動日/毎月第1・3火曜日

活動場所/吾妻学習センター



▲講師の佐藤憲吉さん(写真中央)が丁寧に操作方法などを説明

あすなるスマホ・パソコン会 アットホームな雰囲気楽しく学習!

吾妻学習センターでパソコンの操作を学習していた「あすなるパソコン会」のメンバーが、スマホを使いこなして自分達の生活をより豊かにするため、令和5年から「あすなるスマホ・パソコン会」として新たに活動をスタートしました。

活動は、スマホの基礎を学ぶ「講習」と各会員の悩みを相談する「お悩み相談」の2部構成です。講習中の何気ない疑問やさまざまな相談内容に、会の設立当初から講師を務めている佐藤憲吉さんが丁寧に対応し、アットホームな雰囲気楽しく学習しています。

活動を充実させるため、会員募集のチラシを作成しました。チラシの効果もあって、4人の新規会員が加わり、現在は9人で賑やかに活動しています。

大杉会長に聞きました!

スマホの機能は多岐にわたり、使いこなすことで生活は便利になります。その反面、操作方法が分からない、1回で覚えられないなど、さまざまな悩みもあります。

そんなスマホの「困った」「覚えられない」を解決するため、各自が持つスマホの悩みを気軽に相談できるように、活動を続けていきたいです。

We Love♥
ふくしま!

第67回 「住まいを考えよう」

能登半島地震の被災地では、生活と地域の再生に向けた取り組みが本格化してきました。

この地震で失われた貴重な命の大半は建物倒壊によるもの。能登地域は、耐震基準強化前の住宅(旧耐震基準住宅)とします)の割合が高く、改めて耐震補強の重要性を痛感します。新耐震基準住宅でも倒壊が報告されており、度重なる地震で耐震性が弱っていたことも想定されます。

福島市における旧耐震基準住宅の割合は27%。大震災に加え、2度の福島県沖地震により、3度も震度6弱の揺れを受けています。旧耐震基準住宅の補強が急がれますし、それ以外でもダメージを受けている住宅は、安全性を確認の上、適切な対応が必要でしょう。

住まいのもう一つの重要要素は、断熱性です。地球温暖化で年々暑くなる一方、寒いときは寒く、寒暖の振れ幅が大きくなっています。熱中症はもちろん、ヒートショックや疲労など寒暖差による体調不良も起きやすく、命取りにもなりえます。暑さ寒さを冷暖房で対応するにしても、外気の変化に十分対応できなかつたり、光熱費の高騰を考えると、つい冷暖房をケ

ちったりしてしまいます。その点有効なのは住宅の断熱性強化です。外気の影響を受けにくく、エネルギー消費も節約できます。南東北地方の従前の住宅は断熱性が弱く、わが家は以前、プチプチや段ボールをサッシに張り付けて寒さをしのいでいました。

今後、住まいには耐震性や断熱性を確保して、安全で健康的、エネルギー消費も少ない住宅にしていくことが望まれます。もちろん、そのための改修費用がかかりますが、助成制度があり、市ではそうした情報を提供していますので、分からない場合はご相談ください。

高齢者の場合、買い物や通院に便利な市街地のマンションなどに移って、性能の高い住まいを確保するケースが増えていきます。住み慣れた家や地域を離れるのは切ないと思いますが、ケア付き高齢者住宅などでは新しい近所付き合いを楽しめるようです。

住まいは生活の基盤。能登半島地震を機に、安全で健康的、地球にもやさしい住まいについて考えてみましょう。

福島市長 木幡 浩

